

飯能市視察における質疑一覧

1 事前質疑

(1) 教育について

ア 小中一貫教育をしたことで子どもたちの行動の変容（登下校の不安、学習活動の多様に広がったことなど）よい面と課題面を教えてください。

⇒よい面 おもいやりや手本となる行動など、小学生の刺激になっています
課題 特にありません

イ 施設隣接型小中一貫校として、どのように学校・家庭・地域が一体となったカリキュラムマネジメントの充実を図っているのか教えてください。

⇒学園音楽会や学園持久走大会など
総合的な学習の時間

ウ 9年間の教育方法は、6-3 制か、4-3-2 制を教えてください。

⇒実質的には、6-3 制であるが、4-3-2 を意識した小中一貫プログラムを作成しています。

エ 奥武蔵創造学園奥武蔵小学校・奥武蔵中学校設置に係る基本方針における「21世紀型の学校における教育の変化 一斉授業→共同的な学び」の効果は子ども達にとって具体的にどの様に出ているか詳しく教えて下さい。また、授業を行なってデメリットがありましたら教えて下さい。

⇒自己肯定感が、高くなっています。
デメリットは、少人数のため、広がり・深まりに限界があります。

オ コーディネーショントレーニングの取組実践について

・体育授業における実施方法及び放課後子ども教室における実施状況

⇒授業では準備運動程度で、毎週の朝運動の後半に5分程度実施しています。
放課後子ども教室では、毎年1回実施しています。

・取組の成果と課題

⇒成果：運動会で取り組んだりリズムダンスの上達がスムーズである
課題：正確な実施と取り組む動きを増やすこと

・体力向上を計測する方法と成果について教えてください。

⇒現状では、体力テストでの確認のみです。
コロナの影響をうけたこともあり、比較が難しい状況です。

カ 統合前の小学校の教育の課題と統合後の教育活動や児童の様子などについて、保護者や住民の方は、どのように評価されているのかを教えてください。

⇒少人数により、人間関係に広がりがない
地域を活かした魅力ある教育を行っている
特認校が増えすぎ、人間関係が難しくなってきた

キ 「新たな学校が目指す児童・生徒像」に、「学び合う子」「支え合う子」「鍛え合う子」とありますが、この視点から見て統合前と統合後の児童の変容を教えてください。

ださい。

小学校の保護者アンケート 4段階

大変そう思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない

⇒学び合う子 令和元年 29 59 6 6

 令和5年 33 54 12 1

 支え合う子 令和元年 47 53 0 0

 令和5年 36 56 8 0

 鍛え合う子 令和元年 82 18 0 0

 令和5年 39 50 11 0 コロナの影響も

ク 新たな学校が目指す学校像に「職員も学び合う学校」とありますが、小中一貫校となったことについて、教職員はどのように評価していますか。

⇒統合当初は、なかなか進まなかったもので、難しさを感じていたようですが、年々様々な取り組むを行うことで一貫校としての意識が高まってきています。

 相互の授業参観や授業研究会への参加も増えています。

ケ 統合により一学級の児童数が増えたことについて、保護者たちはどのように評価していますか。

⇒統合直後は、仲間が増えたことに対して好意的であった。

 小規模特認校などの転入生が年々増えたことにより、批判も出てきている。

(2) 地域について

ア 廃校となった東吾野小学校区と吾野小学校区の人口について、平成30年以降から現在までのそれぞれの校区の人口推移を教えてください。

 特に、学校廃校決定後から現在まで、子育て世代の人口減少は歯止めがかかったのか教えてください。

⇒東吾野地区 令和元年1796人 57.2歳

 令和6年1633人 61.0歳

 吾野地区 令和元年1984人 58.7歳

 令和6年1707人 59.5歳 鈍化している

イ 地域から学校がなくなる旧吾野村の人たちは、このことについて反対はありましたか。また、統合後5年経過してどのように感じていますか。

⇒反対意見もありました。

 学校がなくなったことよりも、次の利活用について強い期待があります。

(3) 統合方法について

ア 統合する場合のタイムスケジュールについて、統合というゴールから逆算するとどれくらい時間をかける必要があるのでしょうか、奥武蔵創造学園の場合を教えてください。(タイムスケジュールと内容等)

⇒平成27年7月 保護者アンケートの実施

 平成27年12月～ 庁内検討委員会

平成28年12月～ 3校のあり方を検討する協議会

平成29年 9月～ 住民説明会

平成30年 1月～ 開校準備委員会

イ 小学校3校の統合のプロセスとその際議論となった課題について教えてください。

⇒プロセスはアのとおりです。保護者・住民の方にいかに理解していただくか。

ウ 小学校と中学校を施設隣接型一貫校として決めるに至ったときに、「施設一体型の義務教育学校」や「小中学校が離れた場所にある分離型の一貫校」ではなく、施設隣接型小中一貫校に決定されたのか、その分析・検討結果および経過について教えてください。

⇒奥武蔵創造学園の立地条件そのものにありました。隣接した立地であったことと片方に統合するだけの施設ではなかったことが施設隣接型とした理由です。

エ 小学校の統合について地域住民に反対意見はありましたか。それをどのように解消してきましたか。

⇒ありました。

魅力ある学校の提案、地域の代表者の理解、子どものためにどうあるべきか

オ 統合の計画に際し、旧3小学校の地域住民はそれにどのように参画してきましたか。

⇒平成28年12月～ 3校のあり方を検討する協議会 地域の代表者

平成29年 9月～ 住民説明会 6地区で実施

(4) 施設について

ア 学校図書館の機能強化として、市立図書館と学校図書館をオンラインで結んだり、学校図書館を地域に開放する仕組みを検討する方針であったと資料で拝見しましたが、現状を教えてください。

⇒元年は実施していました。コロナで中断後、明確な再開は行っていない

小学校が拠点で地域の方の利用も、読み聞かせの方は利用している。

本の内容もあり、中学校の利用を検討している。

イ 青梅市では小学校、市民センターは災害時には避難場所でもあります。小学校の跡地は飯能市ではどのような使われ方をし、それに対して地域住人、保護者からの理解について教えてください。

⇒東吾野小跡地：わせがく夢育高等学校となり、避難所にもなっております

吾野小跡地：現在利用について検討中 避難所としての活用は行っています。

ウ 放課後子ども教室の運営・取組状況について

・組織（構成メンバー）と年間実施計画（学期別計画）

⇒生涯学習課2名と地域の方々4名程度＋講師

6月から毎週月曜日に実施（学校の休業日は除く）

・子ども達の参加状況

⇒50名程度が登録しています。実際の参加者は内容によって異なります。

・成果と課題について教えてください。

⇒奥武蔵小は、放課後児童クラブの児童が全員参加となっており参加者が多い児童が飽きないように内容の更新が課題

(5) その他

ア 他地区からの入学の人数はどの程度ですか教えてください。

⇒

	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
小学校	2名	4名	4名	9名	8名	17名
中学校	3名	6名	9名	8名	9名	9名

イ 青梅市では、ケーブルカー、バス、電車を全て利用して通学する子どもたちもいます。例えば統合した場合子供たちの安全を確保できる交通機関等（スクールバス）等が必要になると思いますが、一日どのくらいの頻度で運行するのか、飯能市では子供たちの通学をどのように行っているのか教えてください。

⇒奥武蔵小学校は、3方向のスクールバスを導入しています。

登校で3方向から各1便 下校は14；50と15；45の3方向へ

ウ 統合前の旧3小学校には、学年児童数が隣接する2学年を合計して16名以下となる状況はありましたか。そのような場合は複式学級となるとと思いますが、どのようにしていましたか。また、今回の統合の目的の一つに複式学級回避もありましたか。

⇒東吾野小・西川小・吾野小の3校は、共に複式学級でした。

複式学級の回避は、統合の目的の一つでした。

2 視察当日の質疑

(1) 中学校見学時の質問

ア コミュニティスクールや地域はどのように接しているか。

⇒小中合同でコミュニティスクールを行っており、運営方針の承認や、校則のことなど生徒が議論していることを共有などしている。PTAが中心になることが多いが、様々な地域団体とともに取り組んでいる。また、実際に意見を取り入れ冒険教育としてカリキュラムに組み込んだ実例もある。

イ 令和4年に中学校のプールを廃止しているが、中学校のプール授業はやらないのか。

⇒授業で泳ぐことはないが、水泳の取り組みを取り入れている。今年度は小学校のプールを利用して着衣水泳をする予定。昨年度は川で着衣水泳を行った。

ウ 特別教室等の共有利用の場はあるのか。

⇒特別教室については特段行っていないが、グラウンドについてはお互いに貸し借りを行っている。小学校のほうが中学校より広いので、小学校に頼ったりすることもある。グラウンドの水はけの悪さから中学校の運動会を小学校のグラウンドを利用して行っている。

エ 小学生と中学生は体つきが違うので場所や施設の共有は難しいのではないかな。

⇒難しい場合もあるが、プール、体育館、グラウンドなどは共有ができる。

中学生の部活応援などに小学校6年生が行ったりと、小学校と中学校で様々な形で共に関わっている。

オ 廃校にした地区の人口が減るのではないかと気になるが、3校をそのまま継続させることは難しかったのか。

⇒統合前の3校は全て複式学級となっており、わたりの授業など色々と工夫していたが限界を感じた。また、子どもたちのことを考えると保護者としてもある程度の規模が必要となり統合する結論になった。

カ 学力向上はどのように図られているか。

⇒安心して過ごせる環境作りや、「わからないことから教えて」と言えるような環境を作ること、また「言葉力」の育成を図り、教える子は教え方がわかりやすいように意識している。また、安心する環境があると発表をしたり、自ら学びに対して積極的になる。

キ 統合するにあたり施設に対する要望はあったか。

⇒統合した小学校は、内装・外装ともに、大幅に手を加えた。

ク わたり（複式）の授業がなくなって先生方としてはどうか。

⇒わたりの授業は、難しく大変だったということを聞いている。

(2) 小学校見学時の質問

ア 手話の方がいらっしゃったが、アシスタントの方がいるのか。

⇒支援籍交流の関係で、月に1回ほどの頻度で来ている。

イ 施設一体型の小中一貫学校にできなかったのはなぜか。

⇒小学校、中学校ともに両児童・生徒を全一校に受け入れる施設面での容量がなかったため。

ウ 机や椅子の足にカバーがかけてあったが、何の対策なのか。

⇒音に敏感な子がいるので、机や椅子を動かすときに音が出るのを抑えるため。

エ 学区外から小規模特認校を希望される方は面接などを行われると思うが、希望理由はどのような理由が多いか。

⇒面接は12月ごろに校長先生と教育委員会で行う。学区外の子どもたちが来るのは、隣接他市から飯能市に転入するか、市内の大規模校から移る子が多く、面接時の希望理由には基本的に奥武蔵創造学園の教育理念に魅力を感じたなどの理由を出していただくことが多い。また、様々な事情があって来る子も多い。近年は口コミで広まっているようにも感じる。

3 各校長先生からの説明

(1) 中学校

P T Aや地域の方々と連携して学校運営を行っている。

今年度は言葉の大切さに重点を置いている。

小規模特認校として生徒間は非常に仲が良い

小学生も中学校を日常的に感じているのでいわゆる中1ギャップがない

保護者の方から小学校と中学校をもっと交流させたいという声がある

中学生の凛とした姿や思いやりは小学生と中学生のお互いにいい刺激となっている

(2) 小学校

不登校だったこどもが登校できるようになった
地域が主体的にこどもたちを支える仕組みができている
保護者も協力的
教員もこどもたちを支えることができる

【参考意見】

統合前と後でどちらが良かったか

⇒統合前は、よく見ていただけることが良かった

統合後は、仲間がたくさん増えて良かった。

統合後は、遊具など設備が多くなり良かった。